

第5次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物
The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

ヤイロチョウ

Pitta nympha Temminck & Schlegel, 1850

金井裕（公益財団法人日本野鳥の会）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会 鳥類分科会



令和8（2026）年3月



特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：金井裕，2026. ヤイロチョウ. 環境省（編）第5次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 869-874.

Citation: Kanai, Y., 2026. *Pitta nympha* Temminck & Schlegel, 1850. In: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 869-874.

ヤイロチョウ

Pitta nympha Temminck & Schlegel, 1850

カテゴリー判定結果 情報不足 (DD) ①②

基準 A: データ不足	基準 B: データ不足	基準 C: —	基準 D: データ不足	基準 E: —
-------------	-------------	---------	-------------	---------

環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧カテゴリーに移行し得る属性（具体的には次の要素）を有しているが、生息状況をはじめとしてカテゴリーを判定するに足る情報が得られていない種。

①どの生息地においても生息密度が低く希少である。

【判断理由】

主要な生息地域のひとつとされる宮崎県では、複数の地域で生息が記録されているが、いずれも単独か 2 個体程度のサエズリのみである。

②生息地が局限されている。

【判断理由】

各地で繁殖期の記録は増加傾向にある。しかし、継続的に生息が確認できている地域は宮崎県、高知県および長野県の一部地域のみだが、宮崎県では生息数が激減し、高知県および長野県では営巣場所が安定していない。最近の繁殖状況の詳しい情報はなく、生息記録の増加も繁殖の失敗したあとの漂流個体が増加している可能性がある。

評価分科会： 鳥類分科会

概要

ツグミ大の中型の鳥で日本に夏鳥として 5 月中旬に飛来する。生息地域が九州、四国、本州のごく一部に限られており、生息数も少ないと考えられる。大径木の常緑広葉樹林が本来の生息環境と考えられるが、現在は常緑広葉樹林や落葉広葉樹林が混在するスギやヒノキの植林地で記録されることが多い。林床でミミズや昆虫類を採餌し、林の外で観察されることは少ない。

基礎情報

【形態】

全長 18～20 cm。翼長 118～127 mm、嘴峰長 22～25 mm、心臓長 38～42 mm、尾長 35～42 mm。頭部は褐色で中央に黒い線があり、眉斑は黄白色で黒い過眼線がある。喉から胸と脇腹は黄白色で、腹の中央から下尾筒にかけては赤色、背面と肩の羽は緑色で、腰と上尾筒はコバルト色、尾羽は黒色で先端はコバルト色という色彩から八色鳥とか八色つぐみと呼ばれるようになった。初列風切羽の基部には白斑があり、飛ぶとよく目立つ。

【生活史】

繁殖期は5月から7月で、よく通るポポペン、ポポペンと聞こえる声でオスもメスもさえずる。地上や大木の叉に木の枝などでラグビーボール大の横に出入り口のある巣を作る。卵は、1巣に4～6個産卵し、抱卵から約4週間で巣立ちする。食物はミミズ類がもっとも多いが、サワガニや地表性の昆虫類も多く採食する。

【生息環境】

常緑広葉樹林の残る西日本の低山帯を主な生息地としている。森の中の開けた地上で採餌する習性から、草薺、笹原、シダ、灌木が茂った林には生息しない。

生息環境区分：	【陸域_中標高地 低標高地】森林
	【陸域_平地部】森林
国土地域区分：	(1) 奥山自然地域, (2) 里地里山・田園地域

【分布域】

本亜種は、日本、朝鮮半島および中国と台湾にかけて繁殖し、中国南部からインドネシア、ボルネオ島にかけての地域で越冬すると言われているが、日本で繁殖する個体の越冬地は明らかになっていない。中国では、最近の確実な生息記録はほとんどなく、韓国では済州島などの島嶼で営巣記録があるが、生息数は少ない。台湾では全土で分布が確認されたが、生息数は大きく減少しているとされる。越冬地のボルネオでは、1960年代にサラワクにおいては普通種であったというが、近年ではボルネオ全体でも確実な記録がない。

現在の生息状況

【分布域の現況】

江戸時代に霧島山系に生息の記述があり、1900年代以降は栃木県や和歌山県で生息記録があったが、確実な繁殖確認はなかった。1937年に高知県幡多郡山奈村大物川国有林で初めて繁殖が確認されたが、その後も生息確認は少なく、幻の鳥と呼ばれてきた。日本野鳥の会が1991年に実施したアンケート調査では、1976年以降に石川県中部から北九州までの日本海側海岸線、太平洋側では神奈川県西部から紀伊半島南部、四国南西部、九州南部の48地点で生息が報告され、うち12地点では繁殖の報告があったが継続して生息が確認されていたのは、高知県を中心とした四国の一部、九州や本州中西部の一部のみであった。自然環境保全基礎調査鳥類繁殖分布調査では、1970年代後半では5地点のみだった繁殖可

能性ありが 2000 年前後の第 2 回調査では九州から東海地域にかけて繁殖確認が 2 地点、繁殖可能性ありが 24 地点、2020 年前後の第 3 回調査では九州から関東南部で繁殖確認が 4 地点、繁殖可能性ありが 62 地点と増加している。河川水辺の国勢調査ダム湖調査でも生息確認ダム湖は増加傾向にある。生息分布は拡大傾向にあるが、継続的に生息が確認できている場所は宮崎県、高知県と長野県の局地的な一部地域に限られる。

【生息地の現況】

1937 年に高知県で繁殖が確認された場所は大径木の天然林であったとされる。近年に生息記録のあった地域は照葉樹林が発達する地域とほぼ一致し、繁殖が確認された森林は、広葉樹とスギ・ヒノキ植林の混生林が多い。薪炭林とされてきた常緑広葉樹林では樹木が成長し、生息に適した環境が増加している場所もある。生息密度が比較的高かった、宮崎県御池野鳥の森周辺は、シカの増加による林床植生の変化と写真撮影などによる人為的かく乱により、近年生息数の減少が著しい。

【個体数の現況】

1991 年の全国調査では、九州地域全体で十数つがい、四国地方で数十つがい、本州全域で数つがい程度の記録があるだけで、推定できる生息数は多くても 100～150 羽程度であった。近年は、生息確認地は増えているが、全国的な生息個体数を推定できる調査はない。継続的に調査や観察が行われている高知県や長野県の生息地では、確認数は増減があるが、生息確認のある谷の位置が変動しており、繁殖の失敗による営巣場所の移動が生じている可能性がある。（生息密度の高かった宮崎県御池野鳥の森は生息数が減少した後、回復していない。）

存続を脅かす要因

熱帯から温帯にかけての森林伐採の影響を受け、生息数が急減していると言われている。姿が美しいことから写真撮影を目的に生息地に入り、繁殖行動が攪乱されるおそれがあるため、営巣地の情報の扱いは注意を要する。シカの増加は、林床植生や土壌環境を変化させ、生息環境に悪影響を与える可能性がある。沢に近い地上に営巣する場合が多いことから、近年西南日本で繁殖期に多発する集中豪雨による影響も考慮する必要がある。

要因の区分：	（過去）	森林伐採，シカ食害，その他（写真撮影など人為的かく乱）
	（現在）	森林伐採，自然災害，シカ食害，その他（写真撮影など人為的かく乱）

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヤイロチョウ	<i>Pitta nympha</i>	EN
第4次 2019:	ヤイロチョウ	<i>Pitta nympha</i>	EN
第4次 2018:	ヤイロチョウ	<i>Pitta nympha</i>	EN
第4次 2017:	ヤイロチョウ	<i>Pitta nympha</i>	EN
第4次 2015:	ヤイロチョウ	<i>Pitta brachyura nympha</i>	EN
第4次:	ヤイロチョウ	<i>Pitta brachyura nympha</i>	EN
第3次:	ヤイロチョウ	<i>Pitta brachyura nympha</i>	EN
第2次:	ヤイロチョウ	<i>Pitta brachyura nympha</i>	EN
第1次:	ヤイロチョウ	<i>Pitta brachyura nympha</i>	E

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和6年度末時点）

【山形県】評価対象外，【福島県】情報不足(DD)，【千葉県】消息不明・絶滅生物(X)，【東京都（本土部）】絶滅危惧ⅠA類(CR)，【東京都（西多摩）】絶滅危惧ⅠA類(CR)，【神奈川県】情報不足(繁殖期)，【富山県】情報不足(DD)，【石川県】絶滅危惧Ⅱ類(VU)，【福井県】県域絶滅危惧Ⅰ類，【山梨県】情報不足(DD)，【長野県】絶滅危惧ⅠA類(CR)，【静岡県】絶滅危惧ⅠB類(EN)，【愛知県】絶滅危惧ⅠB類(EN)(繁殖)，絶滅危惧Ⅱ類(VU)(通過)，【三重県】絶滅危惧ⅠA類(CR)，【滋賀県】希少種，【兵庫県】要注目種，【奈良県】絶滅寸前種，【和歌山県】絶滅危惧ⅠA類(CR)，【鳥取県】絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)，【島根県】絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)，【岡山県】絶滅危惧Ⅰ類，【広島県】絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)，【山口県】絶滅危惧ⅠB類(EN)，【徳島県】絶滅危惧ⅠA類(CR)，【香川県】絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)，【愛媛県】絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)，【高知県】絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)，【福岡県】絶滅危惧ⅠB類(EN)，【佐賀県】絶滅危惧Ⅰ類種，【長崎県】絶滅危惧ⅠA類(CR)，【熊本県】絶滅危惧ⅠA類(CR)，【大分県】絶滅危惧ⅠB類(EN)，【宮崎県】絶滅危惧ⅠB類(EN-r)，【鹿児島県】絶滅危惧Ⅰ類

保護に係る法令指定状況（令和7年度末時点）

国内希少野生動植物種，鳥獣保護管理法，都道府県条例指定種【長野県・宮崎県】

参考文献

- 藤田剛・樋口広芳・澤田佳長，1992. 日本におけるヤイロチョウ *Pitta brachura* の生態分布. 平成3年度特殊鳥類調査，pp. 1-8. 環境庁，東京.
- 藤田剛・樋口広芳・澤田佳長・磯谷達宏，1992. 四国南西部におけるヤイロチョウ *Pitta brachura* の生息状況と環境選択. 平成3年度 特殊鳥類調査，pp. 9-29. 環境庁，東京.
- 林正敏，1982. 長野県におけるヤイロチョウの繁殖期録. Strix, 1: 123-124.
- 金井裕，1992. 九州地方のヤイロチョウ *Pitta brachura* の生息状況. 平成3年度特殊鳥類調査，pp. 30-42. 環境庁，東京.

- 河川環境データベース（河川水辺の国勢調査），国土交通省。
<https://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/>
- 九州地方環境事務所，2017. 御池野鳥の森におけるヤイロチョウ保護対策の実施について（お知らせ）. https://kyushu.env.go.jp/to_2017/post_94.html
- Lambert, F. and M. Woodcock, 1996. Pittas, Broadbills and Asities. Pica Press, Sussex. 291pp.
- 中村滝男，2010. 森林の夏鳥保護管理マニュアル. 社団法人生態系トラスト協会報告書，pp. 19-24.
- 澤田佳長，1984. ヤイロチョウの繁殖・習性等の観察. 高知県立宿毛高等学校研究紀要，2: 1-10.
- 高野伸二，1970. 珍鳥ヤイロチョウを訪ねて. 林友，11: 54-60.
- 内田清之助，1937. 八色鳥の営巢. 野鳥，4(9): 735-744.
- 植松永至，1994. 長野県南部におけるヤイロチョウ *Pitta brachura* の生息状況と環境選択. 信州大学大学院農学研究科修士論文.
- 植田睦之・植村慎吾，2021. 自然環境保全基礎調査 全国鳥類繁殖分布調査報告 日本の鳥の今を描こう 2016-2021 年. 176pp. 鳥類繁殖分布調査会，東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Pitta nympha has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Pitta nympha* is listed as DD under criteria ①②.

The species that possesses attributes which could easily shift it into the threatened categories due to changes in environmental conditions (specifically, the following criteria), yet lacks sufficient data, including habitat status, to determine its category.

①Low population density and rarity are exhibited in all habitats where it occupies.

②Habitats are highly limited.

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Mid-altitude area, Low-altitude area】 Forest 【Terrestrial/Freshwater area_Plain】 Forest
Threat types:	Logging and wood harvesting, Natural disasters, Deer feeding damage, Other
Law designation status for conservation	Nationally rare species of wild fauna and flora. Wildlife Protection, Control, and Hunting Management Act. Prefectural Ordinance-Designated Species 【Nagano・Miyazaki】.



執筆者:	金井裕（公益財団法人日本野鳥の会）
Author:	Yutaka Kanai

公表年月：2026 年 3 月